

メディアキッズ通信 VOL. 1

発行 特定非営利活動法人子ども文化コミュニティメディアキッズ 編集メディアキッズ 発行責任者 山口 恵
〒815-0032 福岡市南区塩原3-22-1-201NPO法人子ども文化コミュニティ TEL 092-552-1540 FAX 092-561-9840
E-mail info@kodomo-abc.org URL http://www.kodomo-abc.org



アート・ピクニック2005開催

NPO法人子ども文化コミュニティとミュージアム・シティ・プロジェクトが主催する『アートピクニック2005～アーティストになる～』が11月6日(日)博多マリバレイン1階、フェスタスクエアで行われました。
アートピクニック2005は、福岡で活躍するアーティストとのアートワークショップで、3つのクラスとフリーコーナーがあり、子どもの成長発達に大きな影響を与える、芸術との出会いの場をつくり、親子でのコミュニケーションが深まることを目指して開催されました。

メディアキッズは、子どもたちによる情報発信をしています。今回「アートピクニック2005」取材し、子どもたち自身が記事を書き、写真を選んで話し合いながら編集・紙面づくりをしました。メディアキッズ通信第一号が完成しましたのでお届けいたします。ぜひご覧ください。

「Aクラス まわる風景画家 親子と画家のバトル？」 アーティスト 岡山 直之

私が参加したのは、Aクラスまわる風景画家親子と画家のバトル?というクラスです。
一枚の紙は、親子で一枚の紙に違う風景を描いて最後にその画をまわし、絵をいろいろな方向から楽しむというクラスです。
まず、下書きをしました。一枚の絵の中で親子のゾーンに入ってきたり、親が描いた上に子が描き加えて、文句を言い合ったりして、どの親子も熱くなっていました。私たちの作品は、私が



ビルを描いているのにその上に母がクリスマスツリーを立ててきたりしました。「とてもシュールな作品だ」と講師をいただきました。アーティストは岡山直之さんという、現代美術家の方で、昨年(2004年)アートピクニック2004にも参加されていました。そして、下書きが終わったあとの色塗りは親子の個性が存分に発揮されました。まず子どもが考えて色を塗るところや、風景に合わせて塗る所など色塗りでバトルがおきたりして、



全親子が絵を描くのに必死になっているのがわかりました。私たちが親子も自分も描いた絵に色を塗られたりして相当言い合いました。でも、仕上げに絵をまわして見ると、そのばらばら具合がうまく、カラフルになりました。どの親子も最後には「子どもと久しぶりに言い合ったり、ゆっくしゃべれてよかった」と話していました。(文 末松 由都)

「Bクラス まちをつくろっ!(石けんの家とかつくる?)」 アーティスト オーギカナエ



僕はあるにBクラスの「まちをつくろっ!(石けんの家とかつくる?)」のクラスに参加しました。このクラスは自分たちがいつも使っているいろいろな道具で、街をつくるという内容でした。このワークショップには、小さい子どもとお母さん、お父さん、小学生が参加していました。19人くらいで公園や自分の家、ビルや遊園地などを上手につくっていました。



みんなが街の名前を考えました。おもしろい名前がいっぱい出てきたけれど最終的に、「夢の街」に決まりました。Bクラスの先生は、オーギカナエさんというアーティストの方で、チョコチップンスタアのアーティストチョコップンなどのワークショップもされています。



自分がいつも使っている道具などで作品をつくるのはなかなか難しかったけれど、街が完成したときにはとてもうれしく思いました。(文 山口 麗)

「Cクラス フィギュアに挑戦!不思議大博物館鑑」 アーティスト 角 孝政

最初はみんな粘土をこねるところから始めました。粘土は、プラスチックみたいに固く、しっかこねないと形が変えられないと思いましたが、



ただ、「やわらかくなくれば、こっちのもの」という感じで、みんな自由自在に形を変えていました。たとえば、「顔がライオンで胴体がくま」との組み合わせや「亀の甲羅がおぼんてその上に5つのだんごがついている」という誰か思いつかないようなアイデアもありました。次に粘土をオーブンで焼きました。焼き終わったら、色付けです。色はモデルの生物どおりに塗っている人もいれば、まったく違う色に塗っている人もいました。



作品が出来上がった人から写真を撮って完成です。ワークショップ会場のそばに展示してある角さんの作品「不思議博物館」を楽しんでいる人たちもいました。このクラスに参加した富永匠君は「自分の想像と違ったものができたけど友達と一緒に参加したので楽しかったです」と話していました。(文 吉本 新一郎)



「フリーコーナー しりとり」の道」 アーティスト 原田 俊宏



フリーコーナーの「しりとり」の道では、しりとりやりとりで、自由参加した人々とアーティストの原田俊宏さんが、短冊にしりとりを言葉を書いてつなげていくという内容でした。原田俊宏さんは現代美術家で、現在自作のペナントなどをを用いた表現活動「観光と広告」を展開中だそう。ぼくも参加して、しりとりをやってみましたが、前に同じ言葉を使わないか見に行ったりして、しりとりをつなげるのが、とても楽しかった。(文 山口 麗)



編集後記

☆参加してみて、フィギュア作りは大変だと言ったことが分かった。ときどき菓子などについているフィギュアを作る人は、いつも長い時間かけて作っているんだと思った。新聞を作るのも簡単じゃないということが分かった。また新聞を作りたい。 吉本新一郎(小学校5年)
☆今回はアート・ピクニックの事について新聞を書いた。文を書いているとアドバイスがしあつたり、写真を選んだりしてとても楽しかった。 山口 麗(小学校6年)
☆原稿にある写真を選ぶのがたいへんでした。決められた字数で、紙面を埋める事に苦心しました。 末松 由都(中学校1年)

メディアキッズ募集

子ども文化コミュニティのメディアキッズは、番組づくりや新聞づくり、専門家との出会い、異文化交流など多彩なプログラムの実施を通して、子どものメディアリテラシー能力の育成をしています。メディアキッズでは登録者を募集しています。詳しくはお問合せください。

子ども文化コミュニティ メディアキッズ担当 山口 恵